

あきらめず、誠実に



あきらめず繰り返し学ぶことの大切さを高校生に伝えたいという高橋勝さん



「今でも前高の同窓生と昔の話で盛り上がります」と話す吉澤和弘さん

「誠実であれ」。最も大切な企業精神として、社員に伝えている。NTTドコモ社長の吉澤和弘さん(61、1974年卒)。前高の先生や友人、先輩たちから学んだ、人としてのあり方だ。

「自転車をこいで、高校に通った。小学生から続けたサッカーが好きで、高校でもサッカー部に所属。毎年夏休みには夜中から近くの山に登り、朝方に頂上に到着するという合宿を楽しんだ。「みなで二つのことをやり遂げること、精神力がきたえられた」と振り返る。

進路を決めたのは、高

校2年生の後半。コンピューターが世の中に出始めた時期で、情報処理に興味を持った。理科や数学が特に得意なわけではなかった。だが、「これからはコンピューターの時代だ」という信念だけは間違いなくあった。

岩手大学工学部に入学。卒業後は、当時パソコン業界で花形だった富士通やNECに就職したかったが、大学の教授のすすめで電電公社(現・NTT)に入社した。データ通信を専門にしたかったが、希望が通らず、無線の担当に。希望が通らなくても、与えられたことは最後まであきらめ

ずにやってきた。あきらめないのも前高の精神。公認会計士の高橋勝さん(63、1971年卒)は人一倍病弱な子どもだった。小学生のときに腎臓炎にかかり半年間入院。病状が悪く、死んでもおかしくなかったと後から聞かされた。

中学、高校でも、虫垂炎やへんとう炎などの病に苦しむ。前高で大好きな野球をやりたかったが、かなわなかった。

「いつ病気になるか」という恐怖といつも隣り合わせ。将来の進路を考えるために読んでいた本で、公認会計士の仕事を知り、興味を持った。監査法人(公認会計士の共同組織)に所属すれば、「体調が悪いときには助けてもらえるかも」という思いもあった。

学習院大学法学部に入学。4年生の時に学んだ会計学が面白くてたまらず、熱中した。4回目の試験で公認会計士に合格。「遅ればせながら、繰り返し学ぶことの大切さに気がついた」という。

企業の決算の粉飾や誤りを正すのが仕事。企業のトップに「悪いことは悪い」と言える人間関係をつくるため、ゴルフにもテニスにもつきあう。病弱だった過去を感じさせないほど、元気で忙しい毎日を送っている。